

## 活動報告

団体名	ウェザーハート災害福祉事務所
活動名	多様な団体による飯豊町災害 VC の包括的サポートを通じた被災者支援活動
活動期間	2022/08/04~2022/09/01
活動の成果	<p>1. 支援対象者について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援対象者の 25 名については、飯豊町等災害ボランティアセンターのスタッフ（社会福祉協議会の職員）数になります。28 日間の対応で、およそ延べ 700 名に対して支援を行った形になります。</li> </ul> <p>2. 協働連携の必要性が共有されたと認識しています</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回の災害ボランティアセンターについては、社会福祉協議会だけではなく、青年会議所や日本赤十字社奉仕団、NPO、民生委員等が集まり、運営を行いました。また、県外の技術系 NGO（オープンジャパン等）から協力頂き、被災者に対して直接汚泥除去や消毒作業のレクチャー等も行って頂き、被災世帯の衛生面に対する意識向上も図られました。</li> <li>社会福祉協議会にとって日常的に接点の少ない個人・団体の協力を得たことで、それぞれの団体の特徴や長所を知るとともに、「災害時の協働連携の必要性」を認識する機会になりました。</li> </ul> <p>（例：その後山形県内において、被災地社協が災害ボランティアセンターの活動報告を行うにあたり、「災害時には多様な団体の協働連携が必要であること」等と発表する場面もありました。）</p> <p>3. 「総務の強化」や「IT の導入」の必要性を発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害ボランティアセンターでは余りクローズアップされにくい「総務班」のサポートに力を入れました。毎日 3~4 名体制で情報やデータの整理、マッピング作業、資料の作成を行うなど、総務面の補助を行いました。</li> <li>災害ボランティアセンターにおける「総務の強化」や「IT の導入」の必要性等について、示唆することが出来た物と思います。</li> </ul> <p>（例：社会福祉協議会以外にも、町長や副町長等といった行政が強い関心を示されていました。）</p> <p>4. 災害ボランティアセンターの活動報告書を作成し、経験を次に生かす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、飯豊町社会福祉協議会では災害ボランティアセンターの活動報告書を作成中。報告書の中に「協働連携」や「総務、情報発信」についても記載される予定です。</li> <li>「災害ボランティアセンターは社会福祉協議会の単独ではなく、多様な組織との協働連携のもと、総務や IT 面の強化を行うことによってより良い被災者支援につながられる」ということを、他市町村に伝えるきっかけになるものと思われれます。</li> </ul> <p>5. 課題 …… 「人材育成」と可能な範囲での「仕組み化」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回の被害は複数の市町村に及び、4 つの自治体で災害ボランティアセンター</li> </ul>

	<p>が設置されたものの、その一方で被害の大きい地域は限定的でもありました。今後、さらに被害が広域で甚大な災害が発生した場合は対応が異なってくるものと思われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• また、複数の災害ボランティアセンターを訪問すると一部作業の単純化ができる余地があることが分りました。</li> <li>• 今後、広域災害を想定した「人材育成」や、可能な範囲での「仕組み化」を平時に進める必要性を感じています。</li> </ul>
<p>寄付者へのメッセージ</p>	<p>この度はご支援頂き、心より感謝申し上げます。</p> <p>人件費に対する助成は、とても貴重であり、同時に大変有り難く思います。被災者支援において重要なことは、被災者に寄り添った活動を行える人材（コーディネーター）を如何に確保するかだと思います。</p> <p>おかげさまで、今回の災害では、高いスキルと強い想いを持っておられる方々に継続的に被災者支援に関わって頂くことができました。</p> <p>この経験を過去の物にするのではなく、次につなげていけるよう、引き続き努めて参ります。</p> <p>今後とも宜しくお願い申し上げます。</p>

(活動のようす)

